

市史編さん事業について

1. 事業概要	・・・ 1
2. 市史編さん事業の会議体	・・・ 2
3. 市史編さんのワークフロー	・・・ 2
4. 普及活動	・・・ 3

(参 考)

『新修 福岡市史』刊行計画

福岡市史編さん委員会設置要綱

令和2年度 福岡市史編さん委員会委員名簿

令和2年度 福岡市史編集委員会委員名簿

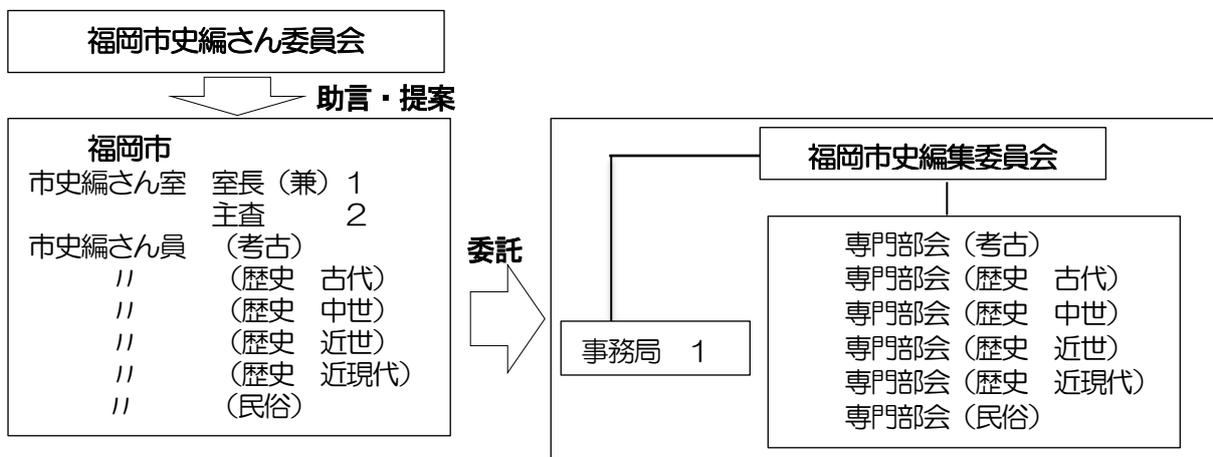
市史編さん事業について

1. 事業概要

(1) 沿革

- 平成 13 年 4 月 市史編さん担当の職員（嘱託員）を総務企画局に配置
- 平成 13 年 7 月 市史編さんの基本方針を市長決裁
- 平成 16 年 4 月 教育委員会博物館に市史編さん室（室長 1 主査 1 主事 1）をおく
- 平成 16 年 11 月 市史編さん委員会をおく
- 平成 17 年 2 月 学識経験者からなる「福岡市史編集委員会」を発足
※ 市史の各巻編集方針の企画並びに制作を編集委員会に委託
- 平成 22 年 3 月 刊行（配本）開始
- 平成 24 年 4 月 博物館を教育委員会から経済観光文化局に移管

(2) 体制



(3) 「新修 福岡市史」の体系

令和2年12月末現在

種類	(既刊)各編巻	予定巻	(販売累計)発行部数
資料編 (10巻) 16巻	考古 (3巻) 3巻	—	(353) 3,000
	古代 (1巻) 2巻	古代1 (～平安時代前期) 2 (～平安時代後期 他)	(—) —
	中世 (2巻) 3巻	中世3 (鎌倉時代～戦国時代、記録・典籍)	(522) 2,000
	近世 (3巻) 4巻	近世4 (江戸時代の農村、漁村)	(314) 3,000
	近現代 (2巻) 4巻	近現代3 (大正時代～昭和はじめ) 4 (昭和はじめ～)	(169) 2,000
民俗編	(2巻) 3巻	民俗編三 (夜と朝「1日」の区切りで見るくらしと文化)	(166) 2,000
特別編	(4巻) 5巻	特別編5 (地図・絵図)	(2,106) 6,000
計	(16巻) 24巻	—	(3,630) 18,000
通史編		刊行計画見直して、ブックレットシリーズを予定	(—) —

2. 市史編さん事業の会議体

※委員名簿後掲

区分	会期	協議事項
福岡市史編さん委員会	年 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業報告, 事業計画 ・ その他 方針の変更報告等
福岡市史編集委員会	年6回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事 (委員任命等) ・ 事業計画・収支予算 ・ 各専門部会の活動の確認 ・ 各巻の販売, 在庫状況の確認 ・ 市史講演会のテーマ, 開催時期, 広報計画の決定 ・ 研究誌の各巻の編集方針, 内容の確認 ・ 普及活動の確認
専門部会	年0～4回 (刊行年度に より異なる)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各巻の内容, 執筆分担, 依頼, 制作進行について検討 ・ 市史講演会 (担当年) ・ 研究会

3. 市史編さんのワークフロー

(1) 編集方針を定める

- 一. 調査・収集の徹底, 学術的な水準と市民にとっての分かりやすさ
- 二. 東アジア全体から見た国際都市としての姿をえがく
- 三. 人々が活きた場としての姿 — 地形・環境・景観のなかの地域の歴史像をえがく
- 四. 文献や有形文化財だけでなく, 画像・映像・人々の経験も調査対象とし, 成果をデータベースとしても活用
- 五. 原史(資料)の尊重と, 人権への配慮

(2) 全体の刊行計画を定める

- (3) 資料調査 歴史 所在確認／台帳・目録化／画像撮影・収集／翻刻
 考古 行政発掘成果の整理／関連遺物等の調査
 民俗 民俗事象の調査／関連文献の調査

(4) 巻別の構成決定

(5) 編集制作刊行

(6) 閲覧拠点に配送・配架 (都道府県政令指定都市立図書館・文書館・主要大学等 300 機関)

(7) 関連催事の開催

4. 普及活動

(1) 広報誌「市史だより Fukuoka」の発行 (12p、8000部)

- ・市内の特定の地域にスポットをあて、その歴史を掘り下げる特集が好評 (令和2年までで 25号を発行)
- ・情報プラザ、総合図書館、公民館等 市内各施設で配布



○これまでの特集の展開

- ・1・2号 市史編さん事業自体の紹介
- ・3～8号 考古・歴史・民俗の各分野の活動の紹介
- ・9号～ 史的再発見マガジンと題して地域特集を開始

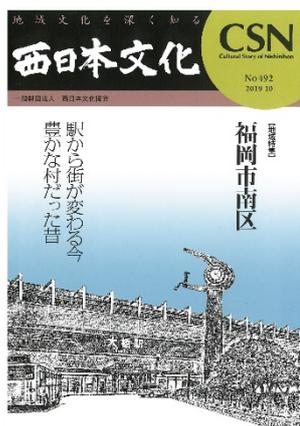
○市民への浸透・効果 ※代表的なもの

- ・日佐のなつかしMAP (平成27年)
20号「日佐」をきっかけに日佐公民館の活動へ展開、住民の皆さんと一緒に地域の歴史地図を制作する



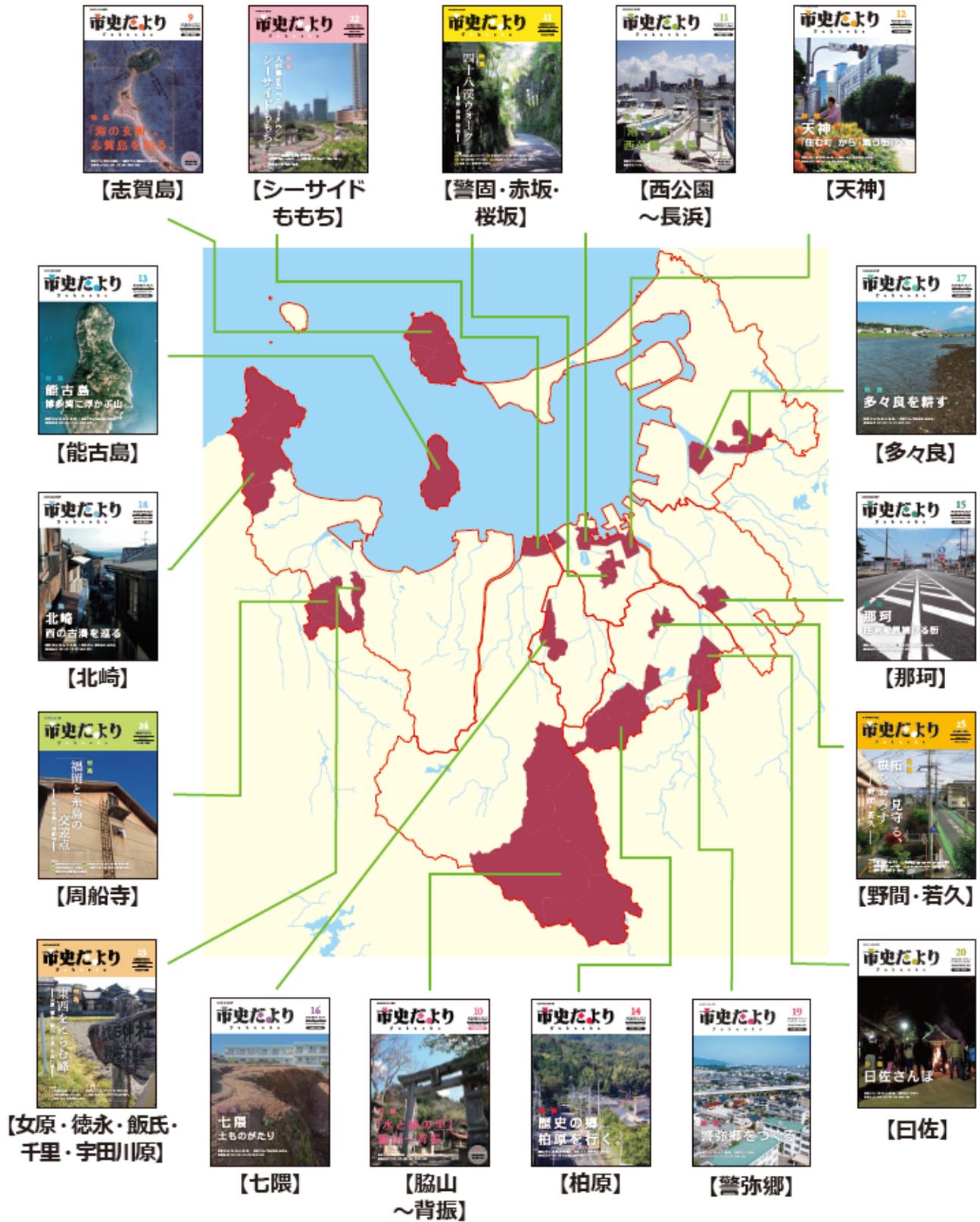
図書館入り口での配布の様子

- ・南当仁校区ちょっと昔ひすとりい (平成30年～)
南当仁公民館の講座で市史だよりの作り方の話をしたことがきっかけとなり、地域の歴史の掘り起こしへ展開、住民の皆さんによる自主的な歴史地図の作成へとつながる



- ・『西日本文化』中央区南区 (令和元年)
「市史だより」がきっかけとなり、西日本文化協会から相談を受け、執筆含めて全面的に協力。25号「野間・若久」の特集へつながる

これまでとりあげた地域（平成 21 年～令和 2 年）



市史だより MAP
f u k u o k a

(2) 研究誌「市史研究ふくおか」の刊行（100～150p、800部）

- ・市史講演会の講演録等の特集の他、調査・研究の成果の一部を『新修 福岡市史』本体に先駆けて発表
- ・ホームページ等でのデータの公開を検討中



(3) 市史講演会の開催

- ・『新修 福岡市史』の刊行巻の内容に則して一般向けの講演会やシンポジウムを開催
- ～今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止～

○これまでの講演会の展開

- ・平成17～21年 市史編さん事業の周知、話題性のある大きなテーマが中心
- ・平成22年以降 刊行物に即した内容や時宜に合ったテーマを設定
- ・近年 他組織との共催や体験的要素も加えた内容のものも実施



昨年度の講演会（上）

と

見学会（右）の様子



これまで開催したテーマ（平成17年～令和元年）

和暦	西暦	演題	講演者	会場	入場者
平成 17	2005	元寇防塁が語るもの	九州大学名誉教授 福岡市史編さん委員会相談役 川添昭二氏	博物館講堂	200
平成 18	2006	志賀島出土金印から見た東アジア世界	西南学院大学教授 高倉洋彰氏ほか	博物館講堂	220
平成 19	2007	古代の対外交流と福岡	東北学院大学教授 熊谷公男氏ほか	博物館講堂	330
平成 20	2008	御家騒動と家臣団	九州産業大学教授 福田千鶴氏ほか	中央市民センター	530
平成 21	2009	そらおおごと！-福岡芸能いろはにほへと-	博多町家ふるさと館館長 長谷川法世氏ほか	早良市民センター	300
平成 22	2010	中世博多の対外交流 思い出の街、福岡	九州大学名誉教授 西谷正氏 写真家 井上一氏	早良市民センター	100
平成 23	2011	九州と東アジア-辛亥革命の衝撃	カナダ・ヨーク大学教授 ジョシュア・A.フォーゲル氏ほか	エルガーラホール	280
平成 24	2012	15・16世紀の博多と東アジア	山口県立大学准教授 伊藤幸司氏ほか	中央市民センター	310
	2012	福岡発・明治維新へのまなざし	北九州市立自然史・歴史博物館 日比野利信氏ほか	博物館講座室 1	150
平成 25	2013	遺跡から見た自然災害と福岡	高知大学特任教授 岡村眞氏ほか	博物館講堂	150
平成 26	2014	福岡城とは何か	長崎大学教授 柴多一雄氏ほか	中央市民センター	310
	2014	黒田家家臣の実像にせまる	九州大学教授 高野信治氏ほか	博物館講堂	230
平成 27	2015	福岡の戦後 70 年～文化・スポーツ・まちづくり～	立教大学教授 石川巧氏ほか	博物館講堂	108
平成 28	2016	空の福岡、海の福岡-近代都市福岡の来歴を語り直す-	長崎大学名誉教授 柴多一雄氏ほか	博物館講堂	150
平成 29	2017	遺跡からみた福岡の対外交流-西部の遺跡を中心として-	愛媛大学名誉教授 下條信行氏ほか	博物館講堂	230
平成 30	2018	活字文化の過去・現在・未来-金属活字からデジタルフォントまで-	芸術工学博士・芸術工学会会員 大串誠寿氏ほか	博物館講堂	200
平成 31	2019	江戸と博多-近世都市の記憶-	学習院女子大学教授 岩淵令治氏ほか	博物館講堂	230
		文林堂活版ありのまま見学会	文林堂店主 山田善之氏	鳥飼・文林堂	58
平成 31	2019	(共催) 福岡市の文化財保護行政	福岡県・市の文化財専門職員	博物館講堂	50
令和 2	2020	(開催なし)			

(4) 取材・レファレンス対応および市史の活用について

- ・市民、マスコミ、市役所の各組織等から届く福岡市の歴史に関する質問への対応

○令和2年度の回答実績

個人（24件）

日本初の帝王切開手術を行った池田陽一が開いた産婦人科の位置や写真について
市内寺院から新たに発見された黒田家家臣の書状について

福岡城下の人口、堀の埋め立て、名島引け（建築部材の移転）について など

マスコミ関係（2件）

福岡大空襲前に米軍が撮影した空中写真について

芸能人の先祖が福岡藩匱札事件に関わっているかどうかについて

市役所関係（他自治体含む）（19件）

下水道事業の記念誌の編さん方法について

小学社会副読本の内容のチェックについて

福岡市の徽章の成り立ちについて

市政だより「道特集」の原稿チェックについて など

(5) 市政だより連載「空想のふくおか」について

- ・市広報課からの依頼。大きな開発が続く中で改めて過去の都市計画等を振り返ってみようと編さん室で企画したもの。

[掲載号]

- ・（令和2年 8月15日号） 第1回「モノレールが走る？ 昭和38年の空想」
- ・（令和2年 9月15日号） 第2回「西に運河があった？ 昭和24年の空想」
- ・（令和2年10月15日号） 第3回「竹下駅周辺に官庁街があった？ 昭和24年の空想」
- ・（令和2年11月15日号） 第4回「幻の博多城 天正15年の空想」
- ・（令和2年12月15日号） 第5回「博多市への夢 明治～昭和時代」

令和2年4月15日号 第7回までを予定

第1回「モノレールが走る？ 昭和38年の空想」 (宮野弘樹)



この連載では、かつて構想された、さまざまな都市計画などを紹介していきます。
昭和38年1月1日号の「市政だより」は、誠者あつと驚かせ



この連載では、かつて構想された、さまざまな都市計画などを紹介していきます。
昭和38年1月1日号の「市政だより」は、誠者あつと驚かせ

るイラストが表紙を飾りました。そこには「10年後のふくおか」と題した昭和48年の市の未来予想図が描かれていたのです。この図で最も注目したいのは、モノレールの環状線です。西新を出た車両は南部の住宅地を経て都心部の「新博多駅」や天神を通過した後、大濠公園の東側から南下し、最終的に「油山観光センター」へと向かいます。他にも、当時乗り入れていなかった新幹線が博多まで延伸していたり、西鉄宮地岳線(現貝塚線)の終点が天神付近になっていたりと、構想とはいえ交通網の

発達には驚かされます。また、団地造成による住宅不足の解消や、上下水道の整備、海岸の埋め立てと工場誘致の実現など、住みよい都市となっている未来が具体的に描かれています。

ではないようですが、高度成長期らしい夢のある当時の雰囲気を感じることが出来ます。
(市博物館市史編さん室 宮野弘樹)

第2回「西に運河があった？ 昭和24年の空想」 (鮎本高志)

この連載では、かつて構想された、さまざまな都市計画などを紹介していきます。
昭和24(1949)年、福岡の未来を語る一冊の本が刊行されました。タイトルは「大福岡市の構想に就いて」。著者は、当時運輸省博多港工事事務所長を務めていた太田尾廣治。発行者は福岡商工会議所です。太田尾は、昭和22年に所長として着任し福岡の港湾整備に関わった経験から、海に開かれた市の強みを生かすべく本書を執筆しました。

この本には、図面がいくつ収録されています。その中から、博多湾全体を展望した「大福岡市開発計画図」を見てみましょう。4月に博多港工事事務所が作成したもので、当時は市域ではなかった志賀島や海の中道から、糸島半島の西側までを取り込む構想だったようです。



布里まで、瑞梅寺川、雷山川、泉川を東西にたぐり運河を造り、周辺を「糸島工場地帯」として発展させるという構想です。当時、今津は外国資本や技術を導入する自由貿易港としての役割を期待されていました。さらに、今津湾東側の能古島も運河地帯の一部に含まれていました。能古島は豊勝地であり、数楽地として外国人旅客を受け



青い長円部分が、当時構想されていた「糸島運河」

入れる窓口となっています。その能古島へは、姪浜から大きな吊り橋を建設。今津と博多港をつなぐ航路も確保しています。太田尾は、河川の利用計画こそが港湾開発の要であるとしています。糸島運河の構想は、それを具現化しようとしたものだったと言えるでしょう。
(市博物館市史編さん室 鮎本高志)

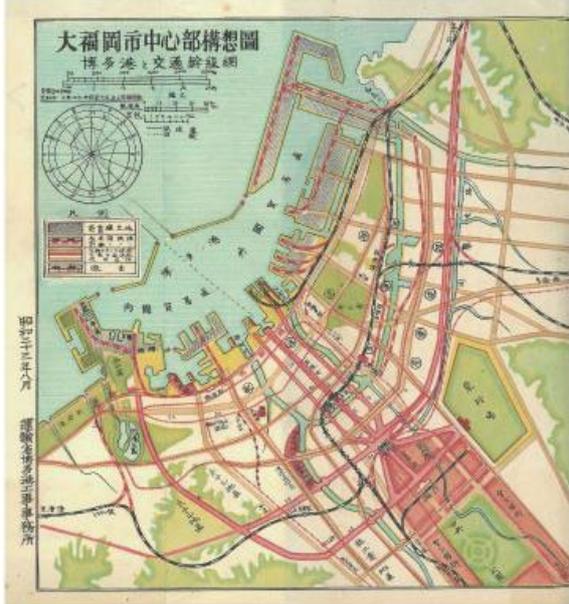
第3回「竹下駅周辺に官庁街があった？昭和24年の空想」(鮎本高志)

7 福岡市政だより
令和2(2020)年10月15日

この連載では、かつて構想された、さまざまな都市計画などを紹介していきます。

前回に引き続き、太田尾廣治著「大福岡市の構想に就いて」(昭和24年)から、「福岡市中心部構想図」写真Ⅱを見てみましょう。図には、東は名島川(多々良川)、南は竹下駅周辺、西は大濠公園までの区域が描かれています。

名島川の下流付近から鉄道路線に沿って、石室川(御笠川)まで「博多運河」を造り、その周辺を重工業地帯としています。運河はさらに那珂川沿いの中央市場と歓楽地帯まで延び、さらにその中上流の軽工業地帯へと



つながつていきます。石室川と那珂川の下流域は商業地帯です。これらの地区を運河によって直結つなぎ、海に面した都市の強みを引き出そうとしています。

運河に加え、鉄道網と幹線道路の整備によってさらに交通の利便性を図ります。黒い色がこの時点で存在していた線路で、赤い色が計画線、×印は廃止予定の線路です。

博多駅は現在地に近い場所に移動され、港へまっすぐ伸びる幹線道路は現在の大博通りをイメージさせます。「福岡駅」の南側には、飛行場の西側から那珂川沿いの竹下駅周辺まで、県庁を中心にした大きな公園を有する官庁街をつくっています。

線路は港の隅々まで延びています。港湾地域を横断する鉄道路線計画は、湾岸部に高架線を建設して、既設の国鉄筑肥線や貨物鉄道と接続させ環状線を形成するなど、壮大なものでした。

太田尾は巻末で、この計画が「個人の卑なる構想」として取り扱われることを希望しています。しかし、港湾開発や博多駅の移転など、太田尾の構想はその後の福岡市の都市計画に少なからず影響を与えたようです。

(市博物館市史編さん室 鮎本高志)

第4回「幻の博多城 天正15年の空想」(八嶋義之)

7 福岡市政だより
令和2(2020)年11月15日

この連載では、かつて構想された、さまざまな都市計画などを紹介していきます。

皆さんは、1582年の本能寺の変後、豊臣秀吉に仕え、さまざまな戦に参加した糟屋(加須屋)武則という人物をご存知でしょうか。彼は、福岡正則や加藤清正と共に「賤ヶ岳の七本槍」に数えられた人物で、秀吉の天下統一事業として1586年から87年にかけて行われた九州平定にも従軍していました。

糟屋は、薩摩国の戦国大名・島津義久が秀吉に降伏した直後に、鹿兒島にいる秀吉から朱印状で命令を受けました。それは「手が空いたら、博多へ移動し、城の普請(工事)を行え」というものでした(『新編会津風土記』巻二)。

当時の博多は、戦乱で荒廃していました。朱印状には「薩摩国へ人数(軍隊)を差し向けて成敗する」とあります。目的は、博多のまちを復興させて朝鮮出兵の



佐賀県重要文化財「肥前名護屋城図屏風」(部分、佐賀県立名護屋城博物館蔵)

名護屋城は、南北が450メートル、東西は600メートル、総面積は17万平方メートルを超える規模と推測され、高さ15メートルに及び石垣で囲まれた壮麗な城だった。本丸からは金箔(びやく)の瓦も出土している。本丸を中心に渦巻き状に二の丸、三の丸、東出丸、遊撃丸、弾正丸などが配置され、それぞれを経由しないと本丸までたどり着けない造りになっていた。秀吉の死後、鹿城となり、現在は石垣だけが残る。

ための拠点とすることだったと考えられます。博多は、古くから貿易港として栄え、対外的な窓口となっていました。大量の兵器や物資を集積するのに便利だったこともあり、城を造り、それを軸に博多のまちを復興させる狙いだったのでしよう。結局、「大岡町割り」によって博多は復興を遂げ、城は築かれることはありませんでした。

秀吉は、後に名護屋城(佐賀県唐津市)を築城します。なぜ出兵の拠点が博多から名護屋に変更されたのか、具体的な記録は残っていませんが、朝鮮半島に限り近い位置にあること、リア

名護屋城は、五重の天守を備えた立派な城でした。このような立派な城が博多に築かれていたかも知れないと考えられます。ただ、かワクワクしてきませんか。

(市博物館市史編さん室 八嶋義之)

ス式の入り組んだ海岸で多くの船を止めることができる地形だったことなどが、主な理由だと考えられています。

小さな漁村だった名護屋は、全国から集まった諸大名や兵士・商人でにぎわい、当時は大阪に次ぐ第二の都市といわれるほど大きな城下町として繁栄しました。

第5回「博多市への夢 明治～昭和時代」(鮎本高志)

5 福岡市政だより
令和2(2020)年12月15日

※「市政だより」掲載のイベント申し込みなどで記入された個人情報は、適切に管理し、目的外には使用しません。



この連載では、かつて構想された、さまざまな都市計画などを紹介していきます。

福岡市か、博多市か。明治23(1890)年2月6日、福岡市会(当時の市議会)で市名改称決議案の採決が行われ、僅差で福岡市に決まった話はご存じの人も多いと思います。

この出来事は、今なお「一差差で敗れた物語」として語り継がれています。しかし、「博多市」実現へ向けた運動がその後も続けられていたことはあまり知られていないかもしれません。

昭和25(1950)年11月4日、元・福岡市長の河内卯兵衛ほか5人は、福岡市長を訪問し、福岡市を博多市に改称するよう建議しました。河内らは市議会議長、商工会議所会頭など、地元政財界の要人たちにも同様に建議を渡し、市名改称運動を展開させます。

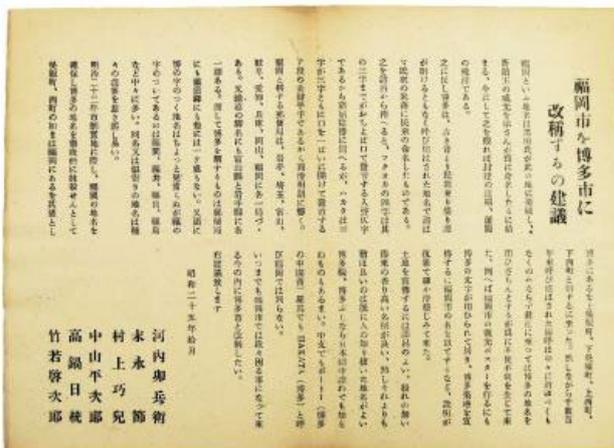
12月には博多の各「一流」の代表者たちが、博多市実現期成会の

会長に河内を推薦し、全面的に応援することを決めています。河内は博多商人の出身で、大正5(1916)年には「博多改称論」を新聞に発表するなど、改称運動の旗振り役でした。

年が明けて河内は体調を崩しますが、建議者の一人である元・市会議員の竹若啓次郎が、たびたび河内のもとを訪ねて状況を報告していることが、河内の日記から分かります。3月には河内本人が、商工会議所有志の求めに応じ、市名改称について懇談しています。河内らは、市議会

に市名改称の請願を行い、受理されました。しかし、この請願は議会に取り上げられることなく、明治23年のような盛り上がりはありませんでした。

その後、河内は昭和35年にも新聞のインタビューなどで「博多市」への思いを語っていますが、昭和38年に87歳で亡くなりました。行政区画として「博多」の名が復活するのは、福岡市が政令市となって博多区が誕生した、昭和47年のことでした。(市博物館 市史編さん室 鮎本高志)



昭和25年に市長に渡されたと考えられる建議書の副本(県立図書館蔵 河内資料5137)

『新修 福岡市史』刊行計画

参 考

刊行年		刊 行 卷
平成・令和	西暦	
22	2010	特別編 福の民—暮らしのなかに技がある—
		資料編 中世1 市内所在文書
23	2011	資料編 考古3 遺物からみた福岡の歴史
		資料編 近世1 領主と藩政
24	2012	資料編 近現代1 維新見聞記
		民俗編 春夏秋冬・起居往来
25	2013	特別編 自然と遺跡からみた福岡の歴史
		特別編 福岡城—築城から現代まで—
26	2014	資料編 中世2 市外所在文書
		資料編 近世2 家臣とくらし
27	2015	資料編 近現代2 近代都市福岡の始動
		民俗編 ひとと人々
28	2016	資料編 考古1 遺跡からみた福岡の歴史—西部編—
29	2017	特別編 活字メディアの時代
30	2018	資料編 近世3
2	2020	資料編 考古2 ※ ブックレット・シリーズ刊行開始予定
3	2021	資料編 古代1
4	2022	民俗編三 夜と朝
5	2023	資料編 近現代3
6	2024	資料編 中世3
7	2025	資料編 古代2
8	2026	資料編 近世4
9	2027	資料編 近現代4
10	2028	特別編 地図・絵図(仮) ※ 資料編・民俗編・特別編 刊行終了

福岡市史編さん委員会設置要綱

(設置)

第1条 福岡市史（以下「市史」という。）編さん事業を円滑かつ効果的に推進していくため、福岡市史編さん委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 市史編さん計画など市史編さんに係る重要事項に関すること。
- (2) 市史編さんに必要な資料の調査・収集、執筆、編集等に関すること。
- (3) その他市史編さんに関して市長が必要と認める事項

(組織及び委員)

第3条 委員会は、15人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、副市長、市議会議員、学識経験者、市職員その他必要と認める者のうちから、市長が委嘱する。

3 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は副市長（経済観光文化局担当）をもってこれに充て、副委員長は福岡市博物館長をもってこれに充てる。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(相談役及び顧問)

第5条 委員会に、必要に応じて相談役及び顧問を置くことができる。

2 相談役は、委員長からの要請に応じ、市史全般について指導・助言を行うものとする。

3 顧問は、委員長からの要請に応じ、委員会の運営に関する重要な事項について助言を行うものとする。

4 相談役及び顧問は、市長が委嘱する。

(協力員)

第6条 委員会に、市史編さんに関する情報の提供等を求めるため、必要に応じて協力員を置くことができる。

2 協力員は、委員長が委嘱する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させ、意見又は説明を述べさせることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、市史編さん室において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

(附則)

この要綱は、平成16年11月16日から施行する。

(附則)

この要綱は、平成29年2月1日から施行する。

令和2年度 福岡市史編さん委員会委員名簿

(敬称略, 順不同)

職 名	氏 名	所属・役職名	備 考
委員長	なかむら えいいち 中村 英一	福岡市副市長	
副委員長	ありま まなぶ 有馬 学	福岡市博物館総館長・九州大学名誉教授	
委 員	かわはら まさたか 川原 正孝	福岡商工会議所副会頭	
委 員	かわさき たかお 川崎 隆生	株式会社西日本新聞社相談役	
委 員	しばた かずお 柴多 一雄	長崎大学名誉教授	
委 員	うだがわ のりと 宇田川 宣人	福岡文化連盟理事	
委 員	やまもと みわこ 山本 美和子	福岡市七区男女共同参画協議会代表	新 任
委 員	ささやま もりと 笹山 守人	福岡市自治協議会等7区会長会代表	
委 員	つつみだ かん 堤田 寛	福岡市議会経済振興委員会委員長	新 任
委 員	りゅう やすのり 龍 靖則	福岡市総務企画局長	新 任
委 員	ほしこ あきお 星子 明夫	福岡市教育委員会教育長	
委 員	よしだ ひろゆき 吉田 宏幸	福岡市経済観光文化局理事	新 任

令和2年度 福岡市史編集委員会委員名簿

(敬称略, 順不同)

職 名	氏 名	所 属 等	部 会
委員長	有馬 学	福岡市博物館総館長・九州大学名誉教授	近現代
副委員長	柴多 一雄	長崎大学 名誉教授	近 世
編集委員	宮本 一夫	九州大学大学院人文科学研究院 教授	考 古
編集委員	重松 敏彦	太宰府市公文書館研究員	古 代
編集委員	伊藤 幸司	九州大学大学院比較社会文化研究院 教授	中 世
編集委員	関 一敏	九州大学 名誉教授	民 俗